

「ありがとうございます。あさひ銀行伊勢佐木町支店でございます」

「あの、振込があったかどうか確認をしたいのですが・・・」

「ではお名前と口座番号をお願いいたします」

「青山設計事務所です。口座番号は普通口座で二三七一五二二です」

「はい、少々お待ち下さい」

「お待たせいたしました。お振込は、いつからの分を申し上げればよろしいでしょうか？」

「はい、一月一日から、昨日一月二十一日までの間に振り込まれている分があれば教えてくださいいただきたいのですが」

「はい、それでしたら、一件ございます。一月二十日に岡田英次様から二十一万五千円振り込まれています」

「一月二十日ですね。お忙しいところありがとうございます」

「いいえ、どういたしまして」

電話を切って安藤は経理主任の大橋に内線電話でこの件を伝えた。

「はい、大橋です」

「おはようございます。安藤です」

「ああ、おはよう」

「振込の件ですが、あさひ銀行に確認したところ、岡田英次様から、おとこの一月二十日に振込があったことがわかりました」

「振り込まれた金額は？」

「はい、二十一万一千円です」

「それなら岡田様はOKだな。でも他に小野寺様や上田様からの分がまだ振り込まれていないということだな。急いで、小野寺様と上田様に再度支払いのお願いをしてくれ」

「はい、わかりました。早速、電話を入れてみます」

安藤は顧客管理のファイルを開くと、小野寺明夫と上田勇という顧客の連絡先の番号を控え、受話器を持った。

「はい、小野寺でございます」電話に出たのは、小野寺の妻、伊久美夫人である。

「私、青山設計事務所の安藤と申します。いつもお世話になっております。恐れ入りますが、明夫様はいらっしゃいますでしょうか？」

「申し訳ありません。今、出かけております、お昼ごろ戻ると思いますが・・・。よろしければ私が代わりに、用件を承りましょうか？」

「では、お願いいたします。実は、先月にご請求させていただきました分のお支払が、まだ確認できませんので、お振込の予定日を教えていただけませんでしょうか？」

「大変申し訳ございません！ すぐにお調べして折り返しご連絡いたします。あの、失礼ですが、もう一度お名前をお願いいたします」

「はい、青山設計事務所、経理課の安藤です。電話番号は二二一一五二二です。よろしく願います」

そう言って安藤は電話を切り、「次は上田様か・・・」と呟いた。